

加賀検定

第6回 加賀ふるさと検定試験問題

初級 (全60問)

2018年12月16日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

1 江戸時代後期から戦後まで、私達の衣服の原料はほとんど()中心だった。

- ①わら ②麻 ③ナイロン ④木綿

2 ぶり大根といえば、旬のぶりと大根と一緒に()加賀の代表的な郷土料理である。

- ①あえる ②漬物にする ③煮付ける ④麴漬けにする

3 人々は長い間、飲み水を得る方法として井戸に()を使って水を汲み上げていた。

- ①つるべ ②モーター ③水道 ④ひしゃく

4 昔は町屋と農家では家のつくりが大きく違っていた。加賀の農家では()と呼ばれる大便所が家の外につくられていた。

- ①うまや ②どうけ ③せんちゃ ④おもや

5 大聖寺町の全町が参加して行われる桜まつりは、()のお祭り行事である。

- ①菅生石部神社 ②江沼神社 ③加賀神明宮 ④愛宕神社

6 氷河期においても温かい時代と寒い時代があった。加賀市の大聖寺川や動橋川の中流域付近には、こうした気候や地殻の変動によってできたとされる()が見られる。

- ①独立丘陵 ②古期砂丘 ③扇状地 ④河岸段丘

7 勝山市、小松市、加賀市にまたがる県境の山は()と呼ばれて、高山植物がたくさん生え、ブナクラス域になっている。

- ①富士写ヶ岳 ②大日山 ③白山 ④錦城山

8 ()川は、加賀市の2大河川の一つだが、海に注がず柴山潟に注いでいる。

- ①大聖寺 ②尾俣 ③動橋 ④八日市

9 加賀市の海岸部は（ ）公園になっている。

- ① 県立 ② 国立 ③ 市立 ④ 国定

10 加賀市の山間部における（ ）川上流域はダムが出来て湖底に沈み、いくつもの山村が廃村となった。

- ① 大聖寺 ② 動橋 ③ 熊坂 ④ 日谷

11 6000年前の（ ）時代、今の海水面は2～3m位高かったと言われ、江沼平野の殆どは入江だった。

- ① 旧石器 ② 縄文 ③ 弥生 ④ 古墳

12 もともと加賀の山間部に住む動物であった（ ）やニホンカモシカは、人里に現れ餌を求めています。その大きな原因は焼畑がなくなったことや杉の植林だといわれている。

- ① アライグマ ② ニホンツキノワグマ ③ 馬 ④ ハクビシン

13 小塩辻村の十村を務めた（ ）は、「農事遺書」を残した。

- ① 堀野 新四郎 ② 鹿野 小四郎 ③ 篠原 藤平 ④ 橋本 源左衛門

14 加賀市出身の国会議員（ ）は、三木出身で農林大臣になり、戦後の食糧政策に貢献した。

- ① 稲坂 謙吉 ② 大塚 志良 ③ 桂田 富士郎 ④ 坂田 英一

15 大聖寺藩は、藩祖前田利治から14代（ ）まで230年間にわたって前田家により支配された。

- ① 前田 利鬯 ② 前田 利直 ③ 前田 利之 ④ 前田 利明

16 加賀市の（ ）からは県内最古とされる尖底楕円押型文土器が発掘されたが、この土器は縄文時代始め頃のものとして推定されている。

- ① 美崎千崎遺跡 ② 新保遺跡 ③ 橋立大野山遺跡 ④ 新堀川遺跡

17 ()からは、4戸の石囲い炉跡のある住居跡や三角壻形土製品が確認されている。

- ① 柴山貝塚 ② 額見貝塚 ③ 横北遺跡 ④ 打越遺跡

18 藤の木遺跡からは、縄文時代中期の土器が多数発見されるとともに、信濃和田峠産の()で作られた石刃も出土しており、縄文交易の広がりを示している。

- ① サヌカイト ② 翡翠 ③ 流紋岩 ④ 黒曜石

19 大聖寺藩第9代藩主、前田利之は、これまでの実質()を幕府に願い出て十万石の高直しをおこなった。

- ① 一万石 ② 四万石 ③ 五万石 ④ 七万石

20 黒瀬・南郷古墳群のうち、吸坂A3号墳は全長()mを越す市内最大の前方後方墳で、この古墳は、江沼郡全体を支配した豪族の墳墓と推察されている。

- ① 30 ② 60 ③ 100 ④ 200

21 平安時代、当地域の柏野寺・温泉寺・極楽寺・小野坂寺・()の5つの寺院が白山五院と呼ばれ、白山信仰の拠点地となっていた。

- ① 那谷寺 ② 吸坂寺 ③ 作見寺 ④ 大聖寺

22 文明3年、本願寺8世()は、加賀・越前の国境である吉崎に道場を開いた。

- ① 親鸞 ② 蓮如 ③ 法然 ④ 一休

23 山代温泉の薬王院温泉寺の僧()は、天台宗の延暦寺で学び、後に「あいうえお五十音図」を考案したとされる。

- ① 空海 ② 最澄 ③ 明覚 ④ 延昌

24 建武3年(1336)、建武政権が崩壊し、反尊氏派の新田義貞が越前に入ると、義貞派の()が狩野一党を味方に入れ、越前の細呂木に堡壘を構えて、大聖寺城に立て籠もる津葉清文を攻め落とした。

- ① 畑時能 ② 斯波高経 ③ 富樫高家 ④ 脇屋義助

25 文明年間頃、蓮如の四男蓮誓は、当地（ ）の光教寺に拠点を置いて勢力を築いた。

- ① 山田村 ② 富塚村 ③ 作見村 ④ 尾中村

26 本願寺派が加賀に勢力を伸ばすのを打破しようとする富樫幸千代に対し、越前に亡命していた（ ）が本願寺派と結び、文明6年（1474）越前から加賀に打ち入り、幸千代の能美郡蓮台寺城を陥れて守護職を奪還した。

- ① 赤松政則 ② 富樫成春 ③ 富樫政親 ④ 朝倉孝景

27 天台宗の僧（ ）は江沼郡出身と伝えられているが、天台宗の最高位である座主や僧正の位まで昇りつめ、その事績をもとに謡曲「敷地物狂」や「ゆみつぎ」が創作された。

- ① 最澄 ② 円珍 ③ 延昌 ④ 円仁

28 藤丸新介は天正5年（1577）、越後の上杉景勝に仕え、魚津城の攻防戦で織田方の（ ）に攻められ自刃したと云われる。

- ① 柴田勝家 ② 豊臣秀吉 ③ 明智光秀 ④ 徳川家康

29 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長3年（1598）4月に越前北庄城主堀秀治の越後（新潟県）春日山への移動に伴い、同国（ ）へ移動した。

- ① 村上 ② 新発田 ③ 高田 ④ 長岡

30 飯田屋八郎右衛門は宮本屋窯の画工で（ ）細描九谷の大成者。その門下に竹内吟秋・浅井一毫がいる。

- ① 青手 ② 五彩手 ③ 彩色金襴手 ④ 赤絵

31 山口玄蕃宗永は、慶長3年（1598）に大聖寺城主として江沼郡（ ）を支配した。玄蕃宗永は山城国（京都府）の出身で、茶の湯や能楽に通じる当時の文化人であった。

- ① 4万石 ② 5万石 ③ 6万石 ④ 7万石

32 加賀藩主3代前田利常としつねは、寛永2年(1625)に郡奉行吉田伊織こおりぶぎょうよしだいおりの家来久世徳左衛門けらいくぜとくざえもんに命じ、別所村領の大聖寺川から水を取り入れて山代新村に至る()用水を完成させた。

- ①矢田野やたの ②市之瀬いちのせ ③御水道おすいどう ④鹿ヶ鼻ししがな

33 大聖寺藩祖前田利治としはるは、寛永16年(1639)に筆頭家老玉井市正ひつとうかろうたまのいいちのかみをはじめ、家老神谷内膳かみやないぜんや織田左近おださこんなどを含め家臣かしん()を従えて大聖寺へ入部にゅうぶした。

- ①106人 ②223人 ③278人 ④328人

34 大聖寺藩主2代前田利明は、万治3年(1660)に越中新川郡の目川めがわ・上野うわの・八幡やはた・入善村にゅうぜんなど7か村と加賀能美郡の馬場ばば・島くしむら・串村くしむらなど()を交換した。

- ①6か村 ②7か村 ③8か村 ④9か村

35 大聖寺藩は、加賀藩と同様に藩の専売制せんばいせいである「塩手米制」しおてまいせいにより塩を生産した。江戸後期には塩の生産が()・篠原新はまさび・浜佐美の3か村に減少し、天保元年(1830)頃には「塩役制」しおやくせいへ移行した。

- ①塩屋しおや ②橋立はしたて ③黒崎くろさき ④伊切いきり

36 大聖寺藩主2代前田利明は、寛文期(1661~72)に山城(京都府)やましろ・近江(滋賀県)おうみ両国から茶の実を購入手、領内の村々へ配分こうにゅうした。江戸後期には()村が宇治茶の製法を導入し、領内第一の生産地となった。

- ①山代 ②片山津 ③保賀ほうが ④打越うちこし

37 大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年(1676)に()村ごろうべえあしがる五郎兵衛と足軽あしがるの栗村茂右衛門くりむらしげえもんを河北郡二俣村ふたまたむらに派遣し、御料紙ごりょうがみや日常紙の製法を習得させた。

- ①中田なかだ ②長谷田はせだ ③塚谷つかたに ④上原うわばら

38 大聖寺藩主は、参勤交代さんきんこうたいで下街道しもかいどうを通行する際、必ず金沢城下に宿泊しゆくはくして金沢城へ出向き、藩主や重臣あいきつに挨拶するとともに、加賀藩前田家の菩提寺である宝円寺ぼだいじや()ほうえんじを参詣した。

- ①芳春院ほうしゅんいん ②玉泉寺ぎよくせんじ ③長国寺ちょうこくじ ④天徳院てんとくいん

39 大聖寺藩主の在任期間は、5代前田利直の42か年や2代前田利明の33か年を除けば、短期間の藩主が多かった。とくに、13代前田利行としみちの在任期間はわずか（ ）であった。

- ① 5か月 ② 7か月 ③ 9か月 ④ 11か月

40 加賀藩主3代前田利常の夫人天徳院てんとくいんは、元和5年(1619)に「蒔絵角赤手筥」まきえすみあかてぼこ(婚礼調度品)を敷地の菅生石部神社に寄進した。天徳院は将軍（ ）の娘珠姫たまひめのことである。

- ① 徳川家康いえやす ② 徳川秀忠ひでただ ③ 徳川家光いえみつ ④ 徳川家綱いえつな

41 家老の村井主殿むらいとのもは、宝永6年(1709)に大聖寺藩主（ ）の意を受けて、小堀遠州こぼりえんしゅうの建築意匠けんちくいしょうを採り入れた茶席図かわばたおちんをもとに川端御亭かわばたおちん(現長流亭)を建造したといわれている。

- ① 前田利治としはる ② 前田利明としあき ③ 前田利直としなお ④ 前田利章としあき

42 大聖寺藩による参勤交代は合計で（ ）回行われている。2019年にはこの参勤交代を再現する「加州大聖寺藩参勤交代うおーく2019」が開催されることになっている。

- ① 111 ② 151 ③ 181 ④ 201

43 大聖寺関所の柵門さくもんは、明治2年(1869)に関所が廃止されたとき、家老生駒一彦いこまかずひこの口利きくちきで（ ）の境内に移された。現在は、柵門かわらぶきに瓦葺の屋根がついている。

- ① 久法寺きゅうほうじ ② 全昌寺ぜんしょうじ ③ 実性院じつしょういん ④ 宗寿寺そうじゅじ

44 大聖寺西端の錦城山きんじょうざんには、南北朝時代から元和元年(1615)まで数度すうどに亘って大聖寺城だいしょうじじょうが設置された。大聖寺城が歴史に登場するのは、南北朝時代の（ ）が初見である。

- ① 平家物語へいけものがたり ② 太平記たいへいき ③ 源氏物語げんじものがたり ④ 源平盛衰記げんぺいせいすいき

45 大聖寺藩は、幕府ばくふや諸藩しょはんと同様に江戸前期から儒学を学ぶ儒者はいしゅつを多く輩出した。なかでも、大聖寺藩医かしだげんかく樫田幻覚の7男（ ）は、江戸で儒教の古典籍きゅうけいだんについて記した九経談を出版するなど活躍した。

- ① 新井白石あらいはくせき ② 頼山陽らいさんよう ③ 荻生徂徠おぎゅうそらい ④ 大田錦城おおたきんじょう

46 明治3年、大聖寺藩は50人の浦上^{うらかみ}キリシタンを預かり、大聖寺（ ）の長屋に収容した。

- ① 庄兵衛^{しょうべえだに}谷 ② 穴虫^{あなむし} ③ 木呂場^{ころぼ} ④ 法華坊^{ほっけぼう}

47 明治36年、新家熊吉^{あらいえくまきち}は従業員15名で自転車の木製^{もくせい}リムをつくるために、（ ）を創業した。

- ① 新家工業^{あらやこうぎょう} ② 新家組^{あらやぐみ} ③ 新家總業^{あらやそうぎょう} ④ 新家商会^{あらやしやうかい}

48 明治44年、電力の必要性をいち早く感じていた（ ）たちにより大聖寺川水力発電所^{はつでんしょ}がつくられた。

- ① 旅館主^{りよかんしゅ} ② 機業家^{きぎょうか} ③ 北前船主^{きたまえせんしゅ} ④ 漆器業者^{しつきぎやうしや}

49 江沼郡における最初の本格的な銀行として開業した八十四銀行は、世界恐慌^{せかいきやうこう}や大聖寺の織物業の不振などで休業し、1928年、あらたに（ ）銀行として再生した。

- ① 明治 ② 大正 ③ 昭和 ④ 平成

50 大聖寺山ノ下寺院群の（ ）には、明治期、鉛筆製造^{えんぴつせいぞう}に尽力した柿沢理平^{かきざわりへい}の墓^{はか}がある。

- ① 蓮光寺^{れんこうじ} ② 久法寺^{きゅうほうじ} ③ 正覚寺^{しょうがくじ} ④ 本光寺^{ほんこうじ}

51 昭和23年6月28日、福井県坂井郡丸岡町付近を震源^{しんげん}とする大地震^{だいじしん}が発生し、江沼郡でも（ ）名の死者が出た。

- ① 19 ② 39 ③ 69 ④ 89

52 大聖寺藩士（ ）は、明治2年、琵琶湖^{びわこ}の大津と海津間64kmを結ぶ川蒸気船^{かわじやうきせん}一番丸を就航させた。

- ① 石川^{いしかわ} 嶂^{たかし} ② 東方^{ひがしかた} 芝山^{しざん} ③ 飛鳥井^{あすかい} 清^{きよし} ④ 新家^{あらいえ} 熊吉^{くまきち}

53 加賀市の（ ）町では、トマトなどを中心としたハウス栽培が盛んである。

- ① 柴山^{しばやま} ② 三谷^{みたに} ③ 横北^{よこぎた} ④ 作見^{さくみ}

54 昭和45年頃までは、()が、加賀市の^{きかんさんぎょう}基幹産業といわれていた。

- ①^{きかいさんぎょう}機械産業 ②^{かんこうぎょう}観光業 ③^{せんいさんぎょう}繊維産業 ④^{ぎよぎょう}漁業

55 加賀市の機械産業を支えている企業には、^{のうきぐ}農機具用部品の^{せいぞう}製造では国内のトップメーカーとして知られている()がある。

- ①^{つきぼしせいさくしょ}月星製作所 ②^{みやもとさんぎょう}宮本産業 ③^{ひがしのさんぎょう}東野産業 ④^{えぬまち えんせいさくしょ}江沼チエン製作所

専門テーマ「^{まつおばしょう}松尾芭蕉」

56 芭蕉が^{おく ほそみち}「奥の細道」の旅に出立したのは、()2年のことであった。

- ①^{かんえい}寛永 ②^{けいあん}慶安 ③^{かんぶん}寛文 ④^{げんろく}元禄

57 芭蕉が^{ぜんしょうじ}全昌寺に宿泊した時に次の句を残した。

「^{にわは}庭掃いて 出でばや寺に 散る()」

- ①柳 ②桜 ③イチョウ ④紅葉

58 芭蕉は山中温泉の次に、小松の^{なたでら}那谷寺に立ち寄り、その後、^{でし}弟子の()に引き続き、大聖寺の全昌寺に宿泊した。

- ①^{いこまんし}生駒万子 ②^{ちよじょ}千代女 ③^{にのみやぼっけい}二宮木圭 ④^{そら}曾良

59 芭蕉が泊まった山中温泉の^{いずみや しゅじん}泉屋の主人、^{くめのすけ}久米之助は、芭蕉から()と称する^{はいごう}俳号をもらった。

- ①杉風 ②桃妖 ③北枝 ④去来

60 芭蕉の^{やまなか きく たお ゆ}「山中や菊は手折らじ湯のにおい」という句は、山中の湯に浴すれば、中国の^{こじ}故事に登場する()のように菊の露を飲む必要もないという意味である。

- ①^{きくおう}菊翁 ②^{きくじゅろう}菊寿老 ③^{きくじどう}菊慈童 ④^{きくせんじん}菊仙人